

- 物性研は共同利用の対策が中途半端である。物性研にはもっと痛烈な批判があつてよい。(物性研所内より)
- 差当って改善の必要はないが、研究者の数の増大に応じて改善策を考えよ。
- 100人委員を物理学会全員が選挙し直しては如何。
- 利用者が殆ど理論家に限られ実験屋には不案内。
- 複数列記の直接選挙、若手境界領域からの参加は枠を作っても気休めでしかない。
- とりあえずこのように改めるのは悪くないと思う。
- 出来るだけ多くの人が利用出来る制度にせよ。
- 研究部員の絶対数の1割は若手より選出せよ。
- 選挙人が被選挙人をどれだけ知っているかギモンである。積極的に意欲のある人が公開の場で研究部員になればよい。(Ⅱ, Ⅲは文責武野)

アンケート

“あなたは「基研」を知っていますか？”

京大 基研 物性グループ

京都大学基礎物理学研究所(以下基研と略記する)は、昭和28年創立以来、わが国最初の共同利用研究所としてユニークな役割を果たして来た。然しながら、最近ややもすれば、利用状況が一部の限られた研究者や研究分野に固定化される傾向が現われてきたように思われる。そもそも創立以来十六年ともなれば、その発足当時の状況がたとえ如何に理想的であっても、幾多の弊害があらわれるのは当然で、基研もこの例にもれないものと考えられる。

前々回及び前回の基研研究部員会議の物性関係部員のインフォーマル・ミーティングに於て、研究部員の顔ぶれ及びその専門分野に固定化のみられることが指摘され、選挙制度に欠陥があるのではないかということが議論された。基

特 集

研の研究部員は、物性グループを選挙母体として選出された代議員（物性百人委員会）から選ばれているが、物性グループのメンバー及びそこから選ばれた百人委員には、実験関係者が約半数以上を占めている。一方、基研の利用者及びそこで開催される研究会は、その殆んどが理論関係であるという基研の特質をかんがみると、上記の様な選挙方法が必ずしも適切であるとはいえないように思われる。

上に指摘された問題は単に選挙制度の手直しといった、テクニカルな方法で解決のつくことであろうか？

このような問題が生じた原因は、より深いところに根ざしている。現在日本の研究体制の矛盾のごく一端のみが、我々の目にふれているにすぎないと考えられる。例えば学問の細分化、全体的展望の喪失は、物性物理学という学問自体の特性ともあいまって、論文の過当な生産競争、熾烈な業績主義、更には、予算の重点配分による学問の中央集中化等を生み出している。此等のことが、例えば、基研や物性研の利用者が、あるルートに乗った“陽のあたる場所”の人間に限られているとか、既成の学問分野からはみ出した境界領域の芽が出にくいとか、いわゆる地方大学（この場合、必ずしも地域的に地方にある大学という解釈でなくてよい）の研究者が冷遇されているとか、公募制による就職が必ずしもフェアな基盤の上で行われていないとか、若手にエネルギーが感じられない等の問題と関連して尚一層の学問の腐敗、研究者の墮落を結果していると考えられる。

勿論、これらの矛盾は、研究体制そのものの中で、Self-consistent に解消されうるものではなく、その根源に横たわるより本質的な原因を、我々はつきとめなければならない。このような大きな問題を前に、我々は、現研究体制の中のひとつである共同利用研究所の問題ととり組み、そこから、隠された矛盾をひき出す手がかりとしたいと考えている。

以上のような我々の意図をお汲みいただき、下記のアンケートにお答え下さいますよう、お願い申し上げます。尚このアンケートの結果を次回の研究部員会議（11月上旬の予定）に於ける討議の資料にしたいと考えています。

このアンケートは、物性研究者（物性グループ名簿に登録されている研究者）

を中心に、生物物理関係の研究者等にお配りいたします。

10月10日までに、「基礎物理学研究所 共同利用事務室」宛お送り下さい。封筒の表に、「基研に関するアンケート解答在中」と朱記して下さい。

(質問の中で、分りにくいもの、答えられないもの等がありましたら、その部分はとばして 御回答下さって結構です。)

質問内容

I 共同利用研究所(以下共同利用研と略記)に関して

- 1 今までに「共同利用研」ということばを聞いたことがありますか。

① Yes

② No

- 2 「共同利用研」に対してどのようなイメージをお持ちですか。(「共同利用研」の定義、あるいは、あなたの過去及び現在に於ける「共同利用研」に関する知識をお書き下さい。)

- 3 物性物理学に関連のある「共同利用研」としては、どのようなものがあるか御存知ですか?(具体的に名称を上げて下さい。)

- 4 共同利用研に関する情報が、全国の研究者に良く行きわたっていると思いますか。

① 相当に良くいきわたっている。

② あまり良いとはいえない。

③ わるい。

④ その他。

(情報が良く行きわたっていないと思う場合、どの様にすれば改善されると思われますか?)

- 5 現在の物性関係の「共同利用研」の現状をどのようにお考えですか?

- 6 「共同利用研」は存在意義があるとお考えですか?

① Yes

② No

(Yes, No, いずれの場合も具体的な意見、あるべき姿等をお書き下さい。

現在の物性物理学の研究体制に対する批評とも合わせてお書き下されば幸いです。)

特 集

Ⅱ 基礎物理学研究所について

1 あなたは基研を御存知ですか？

① Yes

② No

2 あなたは、これまで基研を利用したことがありますか？

① Yes

② No

Yes の場合

① 研究会等に出席。

② 基研所員と共同研究をした。

③ モレキュール型研究に参加。

④ アトム型研究員として滞在。

⑤ その他（具体的にお書き下さい。）

3 2の質問と関連しますが、基研の共同利用として、アトム型研究員、モレキュール型研究、短期研究会、および長期研究会の4つの方式が此迄行われています。

a) あなたは、これらの制度の具体的な内容、利用する際の手続きなどを

① よく知っている。

② 多少は知っている。

③ 内容は知っているが具体的な手続きがわからない。

④ きいたことはあるが、よく知らない。

⑤ 全く聞いたことがない。

b) これらの制度が一般に

① よく知られていると思う。

② あまり知られていないと思う。

③ 殆んど知られていないと思う。

④ わからない。

c) これらの制度の知られ方が、中央大学と地方大学で

① 著しくちがうと思う。

- ② ややちがうと思う。
- ③ ちがわないと思う。
- ④ わからない。

d) 貴研究室においては

	しばしば利用する	時 折 利用する	稀にしか 利用しない	全く利用しない
アトム型研究員の制度を				
モレキュール型研究の制度を				
短期研究会の制度を				
長期研究会の制度を				

e) 稀にしか、あるいは全く利用しない場合、その理由

- ① 殆んど、又は全く利用の必要がない。
- ② 利用したいが、その方法がわからない。
- ③ 勤務の関係その他で利用できない。
- ④ その他（具体的に）

f) 若手研究者の間でのこれらの制度の知られ方は、古手研究者の間での知られ方と比べて

- ① 相当わるいと思う。
- ② ややわるいと思う。
- ③ ちがわないと思う。
- ④ わからない。

g) 境界領域の研究者によるこれらの制度の知られ方は、既成の領域の研究者による利用のされ方に比べて

- ① 相当わるい。
- ② ややわるい。
- ③ ちがわない。
- ④ わからない。

4 基研の運営が如何に行われているか御存知ですか。

- ① 相当詳しく知っている。

- ② 大体知っている。
- ③ 殆んど知らない。
- ④ 全然知らない。

5 基研は、共同利用研としてあるべき姿を保っていると思いますか。

- ① 理想的
- ② 大体よい。
- ③ 不満な点が多くある。
- ④ 全然本来の姿を保っていない。
- ⑤ その他

(②～⑤はいずれも具体的に改革すべき点などを御書き下さい)

Ⅲ 基研研究部員（物性関係）の選出方法について

1 基研の研究部員の役割について

- ① 良く知っている。
- ② 大体知っている。
- ③ 殆んど知らない。
- ④ 全然知らない。

2 基研研究部員の選出方法についてこれまで

- ① 良く知っていた。
- ② 大体知っていた。
- ③ 全然知らなかった。

3 前文で説明されたような選出方法を

- ① 改める必要はない。
- ② 改めて直接選挙した方がよい。
- ③ 改める必要はあるが間接選挙がよい。
- ④ 選挙方法等を云々するのはナンセンスである。
- ⑤ その他

4 改める必要がある場合（例えば）

- ① 部員中に若手研究者が必ず1人入るような選挙方法にする。

② 部員中に境界領域の研究者が必ず1人入るような選挙方法にする。

③ 部員中に地方大学 “ ” “ ”

④ その他（具体案があれば書いて下さい）

（Ⅱ，Ⅲの質問事項は，北大堀淳一氏の試案を参考に作成しました。解答欄中，意見を書くところでスペースがたりない場合には，別の紙にお書き下さい。）

特 集

“あなたは基研を知っていますか？”

アンケート回

	I								II				
	1		4				6		1		2		
	①	②	①	②	③	④	①	②	①	②	①	②	a
教 授	46	0	10	32	3	1	45	1	46	0	28	17	28
助 教 授	37	0	4	22	8	4	32	1	37	0	24	14	20
講 師	8	0	0	4	4	0	7	0	8	1	4	4	3
助 手	23	1	3	16	2	1	20	2	22	0	13	10	11
大学院生	33	0	3	21	6	1	32	1	31	2	8	25	6
そ の 他	14	0	1	7	4	3	11	1	14	0	4	10	3
計	161	1	21	102	27	10	147	6	158	3	81	80	71

	II												
	3dアトム型研究員				モレキュール型				短期研究会				長
	しばしば	時折	稀	なし	しばしば	時折	稀	なし	しばしば	時折	稀	なし	しばしば
教 授	0	5	4	31	1	6	5	29	2	12	10	21	0
助 教 授	0	3	3	20	0	2	0	22	4	4	15	16	0
講 師	0	0	0	8	0	0	0	8	0	1	3	3	0
助 手	0	1	0	14	0	1	1	14	2	3	6	8	0
大学院生	0	6	2	16	0	2	1	16	1	5	11	9	0
そ の 他	0	0	1	9	0	0	1	9	0	0	4	6	0
計	0	15	10	98	1	11	8	98	9	25	49	63	0

	II					III							
	5					1				2			3
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	①	②	③	①
教 授	2	21	6	0	10	6	9	23	7	5	17	22	10
助 教 授	0	19	7	0	7	2	10	17	9	4	11	24	5
講 師	0	3	3	0	1	0	4	3	2	0	1	8	2
助 手	1	6	3	0	8	0	5	10	9	1	3	20	2
大学院生	0	9	5	0	10	0	8	9	16	0	5	28	2
そ の 他	0	1	4	0	8	0	4	8	2	0	7	7	2
計	3	59	28	0	44	8	40	70	45	10	44	109	23

答 集 計 結 果

京大 基研 物性グループ

				3a					3b				3c			
b	c	d	e	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	①	②	③	④
3	3	0	0	6	11	6	18	6	5	30	8	3	11	19	2	13
1	2	1	1	1	16	5	14	3	1	25	7	4	13	11	1	12
0	0	0	1	0	1	2	3	2	2	2	3	0	5	1	0	2
0	2	1	0	1	6	1	10	6	1	16	5	3	7	4	2	11
1	0	1	1	1	2	4	19	7	1	20	5	6	12	8	1	11
0	0	0	1	0	2	2	5	6	0	5	6	2	5	2	2	5
5	7	3	4	9	38	20	69	30	10	98	34	18	53	45	8	54

期 研 究 会			3e				3f				3g				4			
時折	稀	なし	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
6	6	37	9	8	10	10	4	10	19	10	13	6	2	20	4	16	18	7
1	0	22	5	8	6	9	11	14	4	7	12	7	3	13	1	14	19	5
1	0	8	3	3	0	2	3	0	2	3	2	1	0	6	0	5	0	3
1	1	13	7	5	2	5	4	7	3	10	2	4	1	14	0	7	11	6
2	1	16	8	8	1	4	14	12	2	3	7	2	3	17	0	8	11	14
0	1	9	5	6	1	0	5	2	2	5	7	1	0	6	0	4	6	15
11	9	105	37	38	20	30	41	45	32	38	43	21	9	76	5	54	65	50

				4			
②	③	④	⑤	①	②	③	④
3	12	4	6	10	14	14	4
5	7	9	4	1	1	2	4
2	2	0	1	4	3	5	0
3	4	3	3	5	4	5	3
7	5	3	6	8	5	4	3
5	1	0	2	2	5	1	1
25	31	19	22	30	32	31	15

アンケート依頼総数 750人
 回答者総数 162人
 回答率 21.6%

S.44.11.5